

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【学校像】 「高い志」を持ち、既存の枠を超える、新たな価値を生み出す真のリーダーを輩出する学校。 【生徒に育みたい力】 (○) 基礎・基本の充実と深い学びを通じて未来を拓く力を養い、「高い志」を持って世界に貢献できる有為な人物を育成する。 (○) ハイレベルな授業を通じて、進路実現を可能にする高い学力とのびやかな知性を育む。 (○) 生徒の自主性を重んじ、互いの協力や切磋琢磨を通じてたくましい人間力を育成する。
--

2 中期的目標

○ グローバルリーダーズハイスクールの特色づくりのため、本校の3つの教育目標を3年間の生徒育成計画「北辰プロジェクト」に基づいて取組むとともに学校の組織としての教育力の向上のための取組みを実践する。 1 「高い志」の涵養 (1)「高い志」を涵養するための取組みを継続発展させる。 ア 文理融合の課題研究や探究活動等を通じて主体的に学ぶ意欲と姿勢を育み、大学での学びにつなげる。 イ 卒業生人材ネットワークを拡大し、大学等と連携する等、卒業生による支援体制を強化する。 ① 大学教授、企業等で活躍する卒業生等による「卒業生講座」「学問発見講座」 ② 京都大学を中心とした「卒業生研究室訪問」 ③ 関東方面への大学等見学会「東京スタディツアー」 ④ 第1学年対象の「スプリングセミナー」 ⑤ 第2学年対象の「オータムセミナー」 ※スーパーグローバル大学及びグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数合計150名以上を維持する。 (令和3年度(令和4年度入試):140名、令和4年度(令和5年度入試):166名、令和5年度(令和6年度入試):135名) ※高等学校卒業時の進路選択について納得している生徒の割合90%以上を維持する。(令和3年度:96%、令和4年度:92%、令和5年度:96%) 2 「枠を超える知性」を備えた真のリーダーの育成 (1)部活動・学校行事等を通じてリーダーとしての資質を高める。 ア リーダー育成研修を継続させる。 イ 理学療法士による部活動サポート事業を継続発展させる。 (2)グローバルな視点で考えることができる人物の育成のための取組みを継続発展させる。 ア 宿泊野外行事及びその事前・事後学習、またその他さまざまな国際交流行事について、生徒自らがSDGsの視点も踏まえ主体的に企画・運営することを通じて、多様性受容力を鍛え、コミュニケーション能力を高める。 ※宿泊野外行事終了後の生徒アンケートにおける満足度90%以上を維持する。 (令和3年度:国内実施・99%、令和4年度:99%、令和5年度:99%) イ 英語教育の内容をより一層充実させる。 3 「自主自律の精神」の育成 (1)生徒会活動、部活動、学校行事を中心に、互いに違いを認め共に生きる力や協調性、豊かな感性を育む。 (2)地域と連携した活動を通じて、地域とつながるこころを育み地域に貢献する意識の向上を図る。 ※地域と連携した活動等への参加する機会を20回以上となるようにする。R3～R5までの一人当たりの回数から指標を変更した。 (令和3年度:生徒一人当たり年間0.3回、令和4年度:生徒一人当たり年間0.86回、令和5年度:生徒一人当たり年間0.9回) (3)自主的な読書活動の支援を通して自学自習の精神を育成する。 ※1,2年生の一年間の読書量一人当たり平均10冊以上を維持する。 (令和3年度:一人当たり平均9.2冊、令和4年度:一人当たり平均9.2冊、令和5年度:一人当たり平均10.8冊) 4 学校の組織としての教育力の向上 (1)地域との連携を図りながら防災に対する教職員の危機管理意識の向上を図る。 (2)教員の授業力の向上を図る。 具体的には、新学習指導要領及び観点別評価の実施、ICTを活用した取組みの推進、研究授業や相互授業見学の充実、大学等との連携の深化を図る。 ※授業観察の際の生徒アンケートにおける授業信頼度平均90%以上を維持する。 (令和3年度:平均95%、令和4年度:平均91%、令和5年度:平均91%) (3)教育環境の整備と働き方改革の推進を図る。 教員の健康を守るため、教育環境の整備を図るとともに学校運営の在り方等を見直し、時間外在校等時間の縮減に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【生徒用】(回答数647) ・「学校に行くのが楽しい」「将来の進路や生き方について考える機会がある。」「生徒主体の諸行事」等の例年どおりの項目については、今年度も肯定的回答「よくあてはまる」「ややあてはまる」が90%以上を占めた。 ・肯定的回答が90%未満の項目では「「学校はICT環境を効果的に活用している」(83%)、「地域や社会、世界がより良くなるためにできることに取り組んでいる」(75%)が昨年度より数値が上昇したものの、引き続きICT環境の充実と地域社会の問題に取り組む姿勢を育む教育に取り組む必要がある。	第1回(令和6年6月8日(土)) ・学問発見講座などを有効に活用し、高校卒業後だけでなく、大学を卒業したその先にある自分の一生を見越して進路先を考えられるよう指導してほしい。 ・茨木高校の生徒は。将来管理職になる生徒も多いと思われる。生活改革や生き方改革という意識で生徒に考えさせる機会を与え、保護者にも理解を得たうえで進めていくことが必要である。

府立茨木高等学校

		ことにより探究心に満ちた自学自習の精神を育成する。また、多様な価値観を身に着けた包容力のある人物となることを期待する。	冊] 維持	
4 学 校 の 組 織 と し て の 教 育 力 の 向 上	(1) 危機管理意識の向上	(1) ア 新型コロナウイルス感染拡大防止のため縮小されていた、伝統的に取り組んできた諸行事をすべて行えるよう高い危機意識を共有する。 イ いじめ・虐待等の生徒事案の未然防止, 生起した場合の情報共有、早期対応に努め、教育相談会の実施をはじめ教育相談体制のより一層充実させる。 ウ 「教職員の不祥事の防止（体罰・セクハラ等の防止を含む）」、「個人情報の適正な管理」及び人権に関する教職員研修を行う。	(1) ア・クラブ代表者会議等を通じて必要に応じて適宜注意喚起し、すべてを生徒自治の下で実施する。 イ・安全・安心アンケート年2回、いじめアンケートを年間3回実施 [各 2, 3 回] ・教育相談に関する事例検討会議3回以上 [5 回] 維持 ウ 「教職員の不祥事」、「個人情報 の適正な管理」及び人権に関する教職員研修3回以上 [3 回] 維持	(1) ア・代表者会議を通じて生徒の意識向上、感染防止、けがの予防などの学習を通じて、生徒主体で行事の実施が叶ったことは非常に大きな意味があった。(○) イ・安全・安心アンケート [年間2 回]、いじめアンケートを [年間3 回] 実施 (○) ・教育相談に関する事例検討会議 [5 回] 実施 (○) ウ 「教職員の不祥事」、「個人情報 の適正な管理」及び人権に関する教職員研修 [3 回] 実施 (○)
	(2) 授業力向上のためのシステムの充実	(2) ア 本校における生徒1人1台端末の活用促進に向けたアクションプランの「ステップ2」の取組みを推進する。 イ 生徒1人1台端末等を活用した ICT を効果的な授業実践及び主体的・対話的で深い学びを推進するための授業研究や大学等との交流をさらに進める。加えて各教科において観点別評価を実施する。 ウ バディシステムを継続実施及びグループウェアソフトを利用したオンライン互見授業の実施により、教員の授業力を向上させる。 エ 全教員の授業観察の際に、管理職によるアンケートを生徒に実施・分析し、コメント、振り返りを面談の中で行い既存の授業アンケートとともに授業力を把握する材料とする。	(2) ア・[生徒・学校教育自己診断] 「学校は ICT 環境を効果的に活用している」75%以上 [75%] 維持 ・ICT の効果的な活用に関する教員研修1回以上 ([1] 維持 イ・ICT の効果的な授業実践及び深い学びを推進するための大学との交流及び研究授業年 10 回以上 [37 回] 維持 ウ・互見授業教員一人当たり平均年2回以上 [4.1 回] 維持 エ・生徒からの授業信頼度 90% 以上 [91%] 維持	(2) ア・[生徒・学校教育自己診断] 「学校は I C T 環境を効果的に活用している」[83%] (○) ・ I C T の効果的な活用に関する教員研修 [2 回] (○) イ・ I C T の効果的な授業実践及び主体的・対話的で深い学びを推進するための研究授業 [48 回] (○) ウ・互見授業教員一人当たり平均回数 [2.6 回] (○) エ・生徒からの授業信頼度 [88%] (△)
	(3) 働き方改革の推進	(3) ア 学校部活動方針及び全校一斉定時退庁日の遵守に学校一体となって取り組む。 イ ICT の活用等による業務の効率化を図る。	(3) ア ・全校一斉退庁日の実施9割をめざす イ ・職員会議の資料電子データでの共有率 80%以上維持 [100%]	(3) ア ・全校一斉退庁日の実施9割 [8 割] (△) イ ・職員会議の資料電子データでの共有率 [100%] (○)